

中医協への平成 25 年度「退院患者調査」報告の結果概要について

11月10日、11月26日のDPC評価分科会において、10月8日の中医協基本問題小委から受けた2点の指摘事項（「治癒」の項目がDPC対象病院において減少している点、平均在院日数が継続的に短縮している点）に関する議論が行われた。

今般、当該議論の内容を、平成26年12月3日の中医協基本問題小委員会において報告を行った。その際、基本問題小委員会であげられた主な意見は以下の通りであった。今後の分科会での検討に当たっては、これらの意見を十分に踏まえるべきとされた。

- 「治癒」と「軽快」を合わせてモニタリングすることについて
 - DPC対象病院、出来高算定病院の比較ではなく、「治癒」が継続的に減少していることに着目して議論をすべきではないか。
 - 「治癒」と「軽快」は独立した指標としてモニタリングすべきではないか。

- 平均在院日数の短縮について
 - 平均在院日数の短縮を診療報酬上で誘導している中で、「治癒」が継続的に減少しており、「予期せぬ再入院」が経年的に増加傾向にある、という傾向を重く見るべきではないか。
 - 急性期の入院医療における平均在院日数の短縮は、現場の医師なども疲弊していると言われており、限界が来ているのではないか。
 - 平均在院日数は全体としては減らすべきではあるが、「予期せぬ再入院」が増加傾向にあることに関しては引き続き議論すべき。